

イエスの宮きよめ; 新しい宮としての私たちのからだ ヨハネによる福音書 2:13-22

1. ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、 (2:13-14)
 - a. 過越の祭りは、エジプトの奴隷から解放されたことを記念する最も重要なユダヤの祭りである。クリスチャンにとって過越の祭りといえば子羊をほふりその血を戸口につけたことを思い浮かべるかもしれないが、私たちが心に留め、また生活に適応すべきこの祭りの別の意味は、古いパン種を取り除くということである。
 - b. この時点ではまだイエスは神殿を父なる神の家として認識しておられた。そして伝統的なユダヤ人が過越の祭りに行なうようにイエスも宮から古いパン種を取り除かれた。新約聖書を通してパン種は偽教師、偽りの教え、悪意や不正などを指す (1 コリント 5:6-8、ガラテヤ 5:8-9、マルコ 8:15)。
 - c. 聖霊に満たされたイエスが持たれた最初の印象は、神殿が商売の場になってしまったということであった。今日の教会を見てイエス様はどう思われるだろうか? あなたが教会に来る時真っ先にフォーカスすることは何だろうか? 私たちもイエス様の時代の指導者たちと同じ過ちを犯さないように気を付けなければならぬ。
2. 細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、また、鳩を売る者に言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」 (2:15-16)
 - a. 神殿の外庭 (異邦人が入れる場所) は遠くからの巡礼者のため犠牲の動物を売る商人たちでいっぱいになっていた。また外国の貨幣は異教の神や王の肖像が刻まれているため使用が許可されず、ユダヤの貨幣に両替する必要があった。しかし彼らの関心はビジネスと金儲けに向いていた。
 - b. 腐敗した神殿の様子を見てイエス様は「父の家を思う熱心」に満たされ、礼拝を墮落し腐敗させている古いパン種の「宮きよめ」をしたのである。
 - c. 本来聖いはずであったものがどうして腐敗してしまったのだろう。
3. そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをするからには、どんなしるしを私たちに見せてくれるのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」 (2:18-19)
 - a. 指導者たちはイエスがしたことに対して、というよりはイエスにその資格があるのかということで抗議したのである。
 - b. イエスの答えはご自分の身の上で起こること - その死と復活 - の預言であった。これはイエスが審判の権威を持っていることの主張であった。イエスは裁きを下し再臨される時にはよりすばらしいものを私たちに与えてくださる。
 - c. あなたは裁きの日の備えができているだろうか? 聖霊によってあなたのパン種を取り除いていただけたらだろうか?
4. そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」しかし、イエスのご自分のからだの神殿のことを言われたのである。それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。 (2:20-22)
 - a. この神殿は当時ではかなり立派な建物だったのであろう。もともとエズラとネヘミヤによって再建されたものを紀元前 20 年頃からヘロデ王が修復した。これはユダヤの歴史上 2 番目の神殿である。
 - b. 神殿は豪華なものであったがイエスはその外見にとらわられるようなことはなかった。もはやそれは神のご臨在を宿すものではなくなっていた。神の家であったのにその管理者たちが盗人の巣にしてしまった。イエスは墮落した神殿をご覧になり、新しい啓示を示される。イエス様のからだは新しい宮である。
 - c. 新約聖書を通して語られていることは、私たちがキリストに属していれば私たちのからだは神の霊が宿る宮である、ということである。今や教会が神のご臨在を宿す場所である。